

「一般歯科での口腔筋機能療法(MFT)の活用法」

名古屋矯正歯科診療所 松下千晃

口腔筋機能療法（以下 MFT と略す）は、『歯列を取り巻く口腔周囲筋の機能を改善する訓練法』として、矯正歯科では不正咬合の一因となっている口腔周囲筋の機能を改善し、矯正治療で得た正しい形態と調和させることを目的におこなわれています。MFT を開始する際は、口腔周囲組織の形態と機能に関するアセスメントを行い、患者の年齢、性格、社会的背景、患者や保護者の協力性を考慮して指導計画を立て、歯科衛生士が中心となって訓練を指導します。今回は、矯正歯科の歯科衛生士として経験した低位舌、口呼吸、舌小帯付着異常などの症例を交え、MFT の訓練法や指導のポイントについてご紹介させていただきます。

歯科診療報酬の改定により、2018年4月から新たに「口腔機能発達不全症」と「口腔機能低下症」が追加され、小児から高齢者までライフステージに合わせた口腔機能の維持・向上へのアプローチとしても MFT が活用されはじめています。矯正歯科だけでなく、一般歯科・小児歯科・高齢者歯科などでのニーズが高まってきているなか、今回の口演が先生方の臨床の一助となれば幸いです。

2003年3月 名古屋デンタル衛生士学院 卒業

2003年4月 医療法人 日進会 名古屋矯正歯科診療所 勤務

2007年12月 日本成人矯正歯科学会認定矯正歯科衛生士2級 取得

2013年12月 日本成人矯正歯科学会認定矯正歯科衛生士1級 取得

2015年～ 日本成人矯正歯科学会理事

2015年～ 日本舌側矯正歯科学会理事

- ① 口呼吸の患者さんへのMFT(ボタンプルで口唇の力を鍛える／リップエクササイザーの作り方／鼻呼吸の訓練など)
- ② 舌小帯付着異常の患者さんへの MFT (随意運動検査／舌小帯切除術するかしないか／切除術前術後の訓練など)
- ③ 低位舌？
- ④ 指しゃぶり？